

技術分野：材料

大学名：大阪産業大学

研究成果	蓄光ガラス複合材料の応用
利用分野	建築・道路資材、防災関連、表示板、フィルムなど
中小企業が利用できるシーズの概要	
<p>1. 従来技術の概要</p> <p>蓄光製品はテープ、道路標識などに利用されているが、製造コストが高く、高価な蓄光材を塗料もしくは焼成材に対して約50%添加しないと蓄光が発揮できない。また塗料などを用いた皮膜では耐摩耗性、耐食性に劣り、温度変化に弱く皮膜の高寿命化が困難である。さらに蓄光材料が均等に分散されない等の問題点が多い。</p> <p>2. 開発技術の概要</p> <p>蓄光材料に一定のガラス材料を添加し複合材料にすることによって低熱源を利用して蓄光ガラス複合皮膜を形成できる。そして基材の材質は制約されない。また蓄光材料の混合割合を小さくすることが可能なためこれによって安価な製品を作ることができる。また蓄光皮膜の特性も改善でき、耐用年数を延ばすことができるため利用分野も拡大できる。</p> <p>3. 開発技術の段階</p> <p>実用化するためには現在80%の完成度であるが20%は市場調査が必要である。</p> <p>4. 技術の提供の際に指導可能</p> <p>蓄光ガラス複合材料の製作及びその皮膜形成装置及び施工方法などについては指導が可能である。</p>	